

ART WAVE FROM THE WEST

5月11日(水)～22日(日)、博物館島瀬美術センターで「第55回佐世保美術展 ART WAVE FROM THE WEST」が開催されました。昨年、佐世保市民展から佐世保美術展として内容をリニューアルした同展は、出品資格が市内から西九州させぼ広域都市圏在住者に広がり、ことしは写真、洋画、日本画、クリエイティブ、彫刻・工芸、書、デザインの7部門に236点の応募がありました。今回の特集では、特賞や各部門の大賞のほか、来館者投票で選ばれたオーディエンス賞を受賞した作品を紹介します。

特賞

写真部門 『炭焼村の冬』 松本純さん

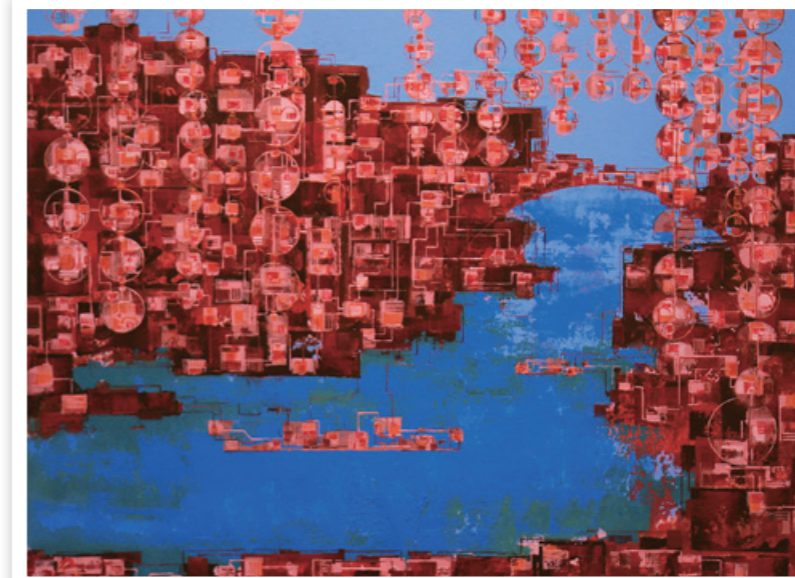


受賞者コメント

この作品は約10年撮り続けた中の一枚です。田舎の風景が好きで、東彼杵町の遠目郷(炭焼き村)には昔ながらの炭焼きをなりわいとしている農家が数軒あり、炭焼き文化を写真に収めたいと思い撮影場所を選びました。炭焼き小屋のご家族とは仲良くさせていただいており、いつものように仕事をしている風景を撮影していました。いつ降るか分からない雪を待つことに苦労しましたが、自分が考えていた通りの構図の中に入る職人と、温かく燃え上がる火床、降り込む雪の全てを収めることができました。無我夢中で、煙がたなびく状態の写真を数十枚撮りました。誰かが撮らせてくれた写真だと思っています。このたびは名誉ある賞を受け、大変光栄に思っています。また身の引き締まる思いです。これからも写真撮影を頑張ります。ありがとうございました。

大賞

洋画部門 『Mercantile Mechanism #20 (yanagawa)』 マカンタイル メカニズム レベッカ ホワイト Rebecca White さん



受賞者コメント

This is piece about hanging decorations and cherry blossoms during HINA festival at yanagawa city. It is the twentieth painting in the series: "Mercantile Mechanism". (原文のまま) この作品は、柳川市のひな祭りのさげもん(つるし飾り)と桜を題材にしたもので「マカンタイル メカニズム」シリーズの20枚目の作品です。

大賞

日本画部門 『潮止まり』 松田 創玄さん



受賞者コメント

ことし、これまでで一番大きなサイズの作品作りに挑戦しました。天気の良いある春の日、桜と渦を見に西海橋へ出掛けましたが、残念ながら時間が合いませんでした。その代わりに、潮の流れが止まった深い海の上を何もなかったように走る船と、その背景に広がる桜のコントラストに目が留まり、思わず写真を撮りました。撮影した写真を基に、水面の穏やかさや海風の心地良さなど、感動が冷めないうちに短期間でレイアウトを書き上げましたが海の表現が大変でした。来年も元気に挑戦したいです。

大賞

クリエイティブ部門 『別の世界線』 岩崎 華蓮さん



受賞者コメント

有彩色を使わず、白・黒・灰色の三色でどれだけ絵の魅力を出せるかを考え、建物の影や生い茂った葉っぱをできるだけリアルに細かく描くことに力を入れました。建物の奥行きを意識し、一番奥の小さく描いた建物に注目してもらえるよう、わざと中央下のスペースには何も描いていません。見る人によってはこのスペースがただの空間ではなく道に見えるなど、視点を変えて見ることができる作品です。

大賞

彫刻・工芸部門 『She Doesn't Mind (カノジョハキニシナイ)』 戸川 五十生さん

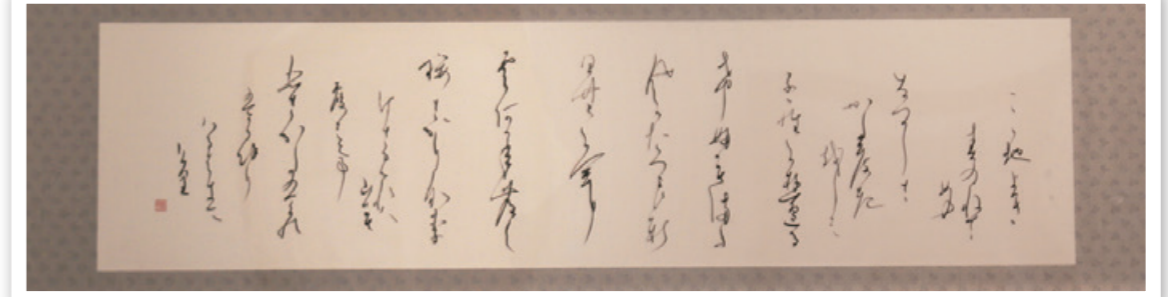


受賞者コメント

おとしに続き昨年国内外の展示会が次々と中止になりました。なかなか出口が見えそうで見えてこない状況が続いていますが、とにかく前を向いて先を見つめていこうとの思いを込めています。材料にはクスノキの丸太を半割りにしたものを使用しています。大賞をいただき光栄です。ありがとうございました。

大賞

書部門 『春のうた』 川畑 虹華さん

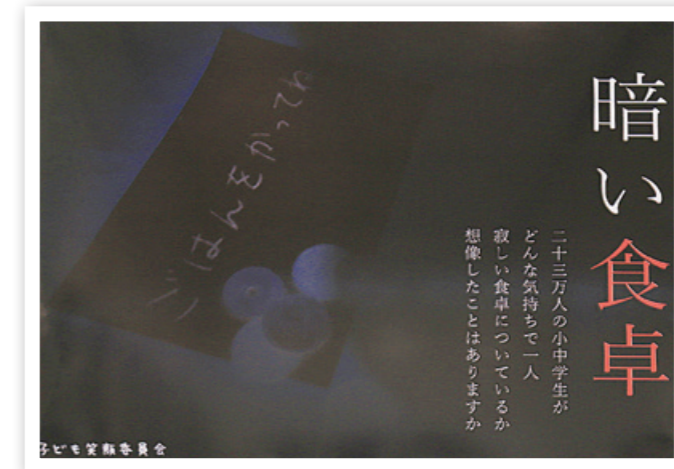


受賞者コメント

毎年大きな作品に挑戦し、佐世保美術展に出品することが張り合いになっています。このたび、思いがけず大賞をいただき大変光栄です。一文字一文字丁寧に書くという基本を大切に、春の歌らしい柔らかな線を意識しながら全体的にすっきりとした印象の作品作りを心掛けました。墨の濃淡や余白の表現などがとても難しく、自分の技量不足を痛感しつつも先生のご指導をいただきながら、なんとか書き上げることができました。

大賞

デザイン部門 『暗い食卓』 蓮見 理彩さん



受賞者コメント

核家族化や共働き家庭の増加などで、子どもの孤食が問題になっています。できるだけ多くの人の目に留まり、孤食の問題を考えてくれるような工夫をしました。薄暗く冷たい色と余白の多い殺風景な構図で子どもの寂しさや孤独感を強く表現し、幼い子どもを想像させるため、書き置きは平仮名にしました。

オーディエンス賞

クリエイティブ部門 『刻(昔語りの干支)』 岩永 みえさん



受賞者コメント

ハマグリと江戸ちりめんを使い、昔語りの干支の時計をかわいく作りました。

※オーディエンス賞は来館者の投票で選ばれた作品です。